

事務局 小野 朋宣



中弘南黒地区農協青年部交流会 ～熱い戦いで交流深める～

2月20日、ロマントピアスキー場にて中弘南黒地区農協青年部交流会が開催され、J A つがる弘前、J A 津軽みらい、J A 相馬村から総勢90名の盟友が参加した。

交流会は去年、今年とJ A 相馬村青年部が主催となっており、今年が最後の担当という事で去年以上にいい交流会にしようという計画を練っていた。相馬管内で行なう強みとしてロマントピアスキー場を選択し、雪上で行なえる競技として、ソリのタイムアタックと綱引き、ツルツル相撲という競技を行った。

開会の挨拶では宮川委員長が「今日は盟友の皆さんに、より交流を深めてもらうためにも、精一杯楽しんでもらいたと思います。」と述べた。

盟友らは競技が始まると戦闘態勢になり、勝敗が決まると全力で喜んだり、悔しがったりと盛り上がりは最後まで衰えることはなかった。

その熱気を多くの人に見てもらいたと思います。



転倒しても歓声に包まれた



最速を目指し頭からの滑走



ペアの部の優勝は当J A 青年部の中沢・小笠原ペアで2位とは差を広げて堂々の1位であった。

ソリタイムアタック

個人の部、ペアの部で行われ、参加した盟友らは頭から滑ってみたり、立って乗ってみたり、様々な態勢で取り組んでいました。ほとんどの参加者は良いバランスを保ちながらゴールした人もいたが、途中ソリからバランスを崩し転がってしまう方もいた。こういうアクシデントも含めて盟友らは最後まで楽しんでいた。

雪上綱引き

綱引きは10人1チームの5チームトーナメント方式で行い、10人中3人は肥料袋を履いて戦った。袋を履いた参加者は足元が踏ん張れない中、一生懸命態勢を崩さないように綱を引っ張っていた。

そんな不安定な様子を見ていた周りの盟友も楽しみながら、声を上げて応援し、とても盛り上がる事が出来た。



一生懸命綱を引っ張る相馬青年部員ら



長時間にわたる決勝戦に息をのむ場面も



厳正な審判を下す宮川委員長と名MCを務めた三上部員

ツルツル相撲

今回一番の盛り上がりを見せたのがツルツル相撲であった。

10人のトーナメント方式で行われ、対戦者には肥料袋を履いて戦ってもらった。予想ではツルツル滑って踏ん張りが全く効かないと思っていたのだが、意外と踏ん張りが効き、ガチンコ相撲となった。

観戦者もそんなガチンコ相撲をしている2人を見て大きな声を上げて応援していた。

新競技であることから盛り上がり不安を持っていたのだが、一番の盛り上がりを感じたので実行委員一同喜んでいた。



青年部員も全力で挑んだ



優勝者の取組は圧巻であった（写真右）



観戦者も目を釘付け